

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00333

研究課題名（和文）日本語文献の海外流通から見た第二次世界大戦期日本の文化戦略に関する研究

研究課題名（英文）The Study on Japan's Cultural Diplomacy during the World War II based on the Research about the Distributions of Japanese Books to Foreign Countries

研究代表者

和田 敦彦（Wada, Atsuhiko）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90283225

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、特にアジア太平洋戦争期を中心として、日本文化を海外に向けて発信、宣伝していく活動を具体的な日本の書物の広がりを通して明らかにしていった。特に日本の占領地、東南アジアの国々において、日本語や日本文化を教え、紹介し、広げていく活動を明らかにしている。海外に広がり、現在も現地に残っている日本語資料の調査は、戦時期において日本の対外文化工作に関わった人々や組織の具体的な姿を照らし出すことができる。さらに、本研究ではそうした海外に向けた日本の文化宣伝の中で、どのような日本文学作品が用いられ、活用されたのかを明らかにしていった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日本の言語、文化の価値を海外に向けて発信していく営為が、戦時期において果たした役割を解明していった。この研究の意義は、アジア太平洋戦争において、日本が対外的に展開していった文化工作を、具体的に占領地で実践していった人や組織からとらえるところにある。日本文化の発信を、その発信者のみでとらえるのではなく、日本の書物を介して日本語や日本文化を占領地で教え、翻訳し、あるいは紹介する具体的な実践の中からとらえ、解明することが可能とな

研究成果の概要（英文）：I clarified the Japanese cultural propaganda during the World War II based on the study about the distribution of Japanese print culture to foreign countries in this research project. To be specific, I clarified the activities of actors who transferred, introduced, taught Japanese language and culture in the areas occupied by the Japanese army during this period. I located and studied the books and magazines in Japanese left behind after the war in Southeast Asian countries and verified how these materials had been used for Japan's cultural diplomacy. In addition, I shed light on the literary works and how they had been used in these activities.

研究分野：日本文学

キーワード：文化外交 書物流通 日本近代文学 読書

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究では、近代、特に第二次世界大戦前、及び戦中期の日本の国際文化戦略の中で、日本語文献を海外に向けて送る、という活動を調査、研究の対象とする。そこでの中心となる問いは、1) 日本の海外文化戦略の中で、どのような文献が、どこに、どれだけ送られていったのか。2) それら日本語文献を海外に運び、流通させていく具体的な組織やルートはどのようにできあがっていったのか。3) 海外に送られた日本語文献は、どのような場所で、どういった人物、組織を通して用いられていったのか。4) 1) から 3) までのデータをもとに、日本語文献を送ることが日本の文化戦略の中で果たした役割、そしてその中で、日本の文学作品が担っていた意味はどういったものであったのか、を問うていく。以上が、本研究課題の中心となる問いである。

本研究代表者は、近代の日本で、書物がどのように流通していったのか、という問題を基盤として研究成果をあげてきた。日本の国内のみならず、文学作品を含めて日本語文献は海外にも送られ、海外で日本語蔵書や日本学を形成していく。特に 1930 年代から、第二次世界大戦中に至るまで、日本語文献は日本の対外的な文化政策の中で、欧米や、さらにはアジアの各地に送られていく。それらの活動の調査、分析、評価を行うこととなる。

この問いの特徴は、文献の内容のみならず、それらが読者のもとに広がっていく経路や、その流通を可能とする多くの人、組織の果たす役割をも重視しながら研究することにある。こうした情報の流通、享受を視野に入れなければ、日本語文献が海外で果たした役割を十分にはとらえることができない。しかしながら、文学研究では、こうした書物が届く仕組みやその変化についての研究が十分進展していない状況にある。このため、本研究代表者は、書物が読者へと届くまでの一連の流れを歴史的に分析する研究手法をデザインし、調査、研究を実践してきた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次世界大戦前、及び戦中期の日本の国際文化戦略の中で、日本の書物を海外に送る、あるいは交換するという事業を調査し、その中で文学表現がどのような役割をふってきたのかを明らかにすることにある。

この研究の目的は、単純に海外の日本語文献の所蔵や移動を明らかにすることにとどまるものではなく、日本の対外的な文化戦略をも明らかにしていくところにある。日本では対外的な文化戦略への関心がしだいに高まり、1934 年に国際文化振興会が設立されることとなる。日本語文献の紹介や寄贈は、その事業の重要な一部をなすようになっていく。また、日米間の緊張が高まっていく中、1938 年には日本文化会館 (Japan Institute) がニューヨークに設置され、日本文化を紹介する拠点としての活動を展開する。その活動は日本を紹介する移動図書館や参考図

書館の活動も伴っていた。日米開戦以降、これら日本語図書の送付や文化の紹介は、日本の植民地やアジア諸国に重点をおいて展開していく。

日本語文献の動きをとらえることが、同時にそれらを送り出した日本側の意図や目的を解明するとともに、実際にどのような人々によってその活動が担われ、具体的に各地でどう活用され、どういう役割を帯びていったのかを明らかにすることとなる。そしてまた対外的な日本についての情報発信は、日本が、どのような日本の自己イメージを形作り、海外に向けて発信しようとしていたのか、そしてまた、送り出された日本についての情報が、欧米で、さらにはアジアにおいて広がっていった具体的な動きを明らかにすることにもつながる。これら研究の目的を達成するために、より具体的には以下の目的を設定していった。国内の文化統制と対外的な文化外交との互いのかかわりを解明していくこと。外地に遣された日本語蔵書をもとに、占領地での文化工作の実態をとらえること。戦時期における書物流通をとらえる研究手法を体系化し、その可能性を明確にしていくこと。以上の目的は、研究当初の目的をもとに研究期間内において再検討、調整しながら設定していったものである。より具体的には以下の研究の方法で述べることとした。

### 3. 研究の方法

国内の文化統制と対外的な文化外交との互いのかかわりを解明していくこと。

日本の対外文化政策は1930年代に具体的な組織や活動の形をとっていくが、本研究では特にそうした対外的な文化政策が、日本国内における日本文化の研究やその統制とどうかかわっていたのかを解明することを一つの目的とした。対外的な文化工作において必要になるのは、日本文化の何を、どのように価値づけ、発信していくかである。両者のかかわりを、具体的な組織や人の活動の結びつきを通して明らかにしていく必要がある。

外地に遣された日本語蔵書をもとに、占領地での文化工作の実態をとらえること。

当初の研究目的には、これら資料の所在が把握できた米国、イタリア、ベトナム（フランス領インドシナ）、インドネシア（オランダ領東インド）を調査対象としていたが、研究期間中に、新型コロナウイルス感染症の拡大によって海外調査に制限があったため、それまで主な資料の収集を完了していたインドネシア、ベトナムでの日本語資料を重点的に研究していくこととなった。特にこれらの蔵書の内容、構成に踏み込んだ分析を行い、そこから見えてくる文化政策の特質を解明していく。そしてまた、それらに中における文学表現の特質やその役割についても明かしていく目的があった。

戦時期における書物流通をとらえる研究手法を体系化し、その可能性を明確にしていくこと。

本研究の独自性は、戦時期の日本の対外文化政策を、具体的な書物の広がりや、そこに関わった人々の活動をもとにとらえるところにある。文化工作を具体的な占領地の現地実践の中で解明していくことがそこでは可能となる。戦時期の日本の文化工作を、当時の思想、政策のレベルのみではなく、日本についての情報を教え、広げ、伝える人々の活動として解明するこうした方

法やその意義、さらにはそこに有用となる資料の可能性を検討し、こうした研究手法をより整備、体系化していくことが研究を進めていく中での新たな目的ともなっていた。

#### 4．研究成果

本研究では、主に第二次世界大戦、及びそれに至る時期の日本の対外文化工作を日本の書物の海外流通という側面から調査、研究してきた。具体的には東南アジア諸国に遺された、戦中の日本語蔵書やそれらが生まれた背景をとらえていった。タイ、シンガポール、インドネシア、ベトナムやフィリピンでの調査を実施していった。特にインドネシア、及びベトナムにおいて、まとまった文庫を見出し、その内容を目録化し、内容やその生まれた状況を解明していった。そこからは、戦時下において日本の言語、文化を占領地において押し広げていった文化工作の容態と、そこにかかわった具体的なアクターの活動があきらかになっていった。それはまた、日本国内の学術、文化の統制と結びつきあった活動でもあったことを解明していった。

感染症の拡大によって海外での調査ができない期間が多くを占めたものの、それまでに収集した調査データをもとに、各地の所蔵資料についての内容に踏み込んだ分析、研究に成果をあげることができた。また、2019年度に当初予定していなかったブラジル、サンパウロでの資料収集、調査の機会ができたため、戦時期の移民地、サンパウロにおける日本語資料流通、読書環境についての研究も可能となった。ベトナムにおけるベトナム社会科学研究所蔵の日本語資料については、渡航がきびしい状況の中、ベトナムで対面、オンラインのハイブリッドで国際会議が実現し、そこで調査の報告を行うことも可能となった。

本研究では、戦時期に日本語資料を占領地に送り、あるいは紹介し、教える具体的な活動を解明していくことを目的としていた。こうした占領地の文化工作の実践に関する情報を豊富に含んだ雑誌に『東亜文化圏』がある。この雑誌の意義を改めてとらえ、その複製、出版刊行を支援していった。

また、日本国内の学術、文化の統制を、海外を含めたその情報の広がりに着目して分析する視点から、戦時期における読書の指導、統制に着目して研究を進めた。これによって、ほとんど研究のなされていなかった読書傾向調査が、戦時下の国民読書運動や文化統制に大きく関わっていたことを明らかにした。

これらの成果は2022年に著書『「大東亜」の読書編成』としてまとまったほか、関係資料の紹介、刊行も並行して行っていった。そして、戦時下における読書指導に関する資料の調査や分析は、新たな資料の発見と整理に結びついていった。この調査は次の新たな研究課題「戦前・戦中における読書傾向調査の基礎研究」へと展開していくことが可能となった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 16
2. 論文標題 安積歴史博物館中学校資料調査について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 15
2. 論文標題 大学図書館文書からうかがえる戦中・占領期の図書没収 『戦時期早稲田大学学生読書調査報告書』刊行補遺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 15-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦、読書史調査グループ	4. 巻 15
2. 論文標題 戦時期早稲田大学図書館業務文書細目	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦、リテラシー史研究会	4. 巻 15
2. 論文標題 ベトナム社会科学研究所所蔵日本語資料（旧フランス極東学院資料） 目録データの補正	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 40-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 14
2. 論文標題 国際会議報告ベトナム社会科学院社会科学図書館和古書コレクション（フランス極東学院旧蔵書）その課題と可能性： 所蔵資料の多面性 戦前の文化外交政策との関わりから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 32-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 13
2. 論文標題 サンパウロ遠藤書店刊行『文化』の位置 付・総目次	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 1,16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 13
2. 論文標題 『東亜文化圏』の対外文化政策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 17,22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 68(9)
2. 論文標題 戦時下早稲田大学の国文学研究：再編される学知とその流通	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 22,33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 読書傾向調査の系譜 戦時下の読書調査・読書指導・読書日記
3. 学会等名 「近代日本の日記文化と自己表象」第29回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 近代文学の中の南京事件 榛葉英治『城壁』の誕生と忘却
3. 学会等名 第37回諜報研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 所蔵資料の多面性 戦前の文化外交政策との関わりから
3. 学会等名 国際会議「ベトナム社会科学院社会科学図書館和古書コレクション その課題と可能性（招待講演）（国際学会）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 榛葉英治『城壁』と引揚げ体験
3. 学会等名 日本近代文学会 11月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 対外文化政策の抗争地点 戦前サンパウロの日本語出版物情報誌『文化』から
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム 第7回 台北大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 第二次大戦下早稲田大学の国文学研究：変貌する東アジア研究の中で
3. 学会等名 5月25日、檀国大学校・早稲田大学 東アジア 知識人文学 国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 和田敦彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 351
3. 書名 「大東亜」の読書編成 思想戦と日本語書物の流通	

1. 著者名 和田アツヒコ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 266
3. 書名 戦時期早稲田大学学生読書調査報告書	



1. 著者名 榛葉英治・和田敦彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 294
3. 書名 城壁	

1. 著者名 和田敦彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 327
3. 書名 読書の歴史を問う 改訂増補版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

和田敦彦研究室 <a href="http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html">http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html</a> 和田敦彦研究室 <a href="http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html">http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html</a> 和田敦彦研究室 <a href="http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html">http://www.f.waseda.jp/a-wada/index.html</a>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

シンガポール	シンガポール国立図書館	ユソフ・イサーク研究所		
--------	-------------	-------------	--	--